FURUSATO no HOKORI

ふるさとの誇り 其の84

南アルプス市から見た鎌倉案内

甲斐源氏が歩く鎌倉

鎌倉　鶴岡八幡宮

遠光らが鎌倉で活躍していた時代に少しタイムスリップしてみましょう。1180年12月12日頼朝が幕府の中心となる大倉の新亭へ転居する行列に長清が参列しているのが見えます。その後大倉で行われる政治に、遠光らも深くかかわったはずです。頼朝が造営した大寺院勝長寿院や永福寺で行われた数々の行事にも遠光や長清、光行らが頼朝につき従っています。1189年５月19日鶴岡八幡宮の塔供養では、遠光が一頭の黒色の良馬を献上しています。南アルプス市の八田牧で育てられた馬かもしれませんね。そして頼朝亡き後の1219年１月27日、鶴岡八幡宮に参拝した３代将軍実朝が、随行する長清の前で公暁に殺されてしまいました。源氏の将軍が三代で滅亡した瞬間です。実朝は大弐局が育てた源氏最後の将軍。長清はその光景を前に何を思ったのでしょうか。

古長禅寺　夢窓国師坐像(国重文)

鎌倉　瑞泉寺

夢窓疎石がつなぐ歴史

南アルプス市鮎沢には鎌倉時代末から南北朝時代に活躍した禅僧夢窓疎石が建立した古長禅寺があります。夢窓疎石は幼少を甲斐国で過ごし、後に鎌倉幕府執権の北条氏に請われ、円覚寺や建長寺、瑞泉寺、浄智寺、寿福寺など多くの寺院にその足跡を残しました。禅の修行の一つである作庭にも秀で、南アルプス市鮎沢の長禅寺（現古長禅寺）をはじめとして瑞泉寺や世界遺産ともなっている京都の天竜寺や西芳寺（苔寺）の庭も作ったと言われています。夢窓疎石は甲斐と鎌倉の歴史をつないでいるのです。

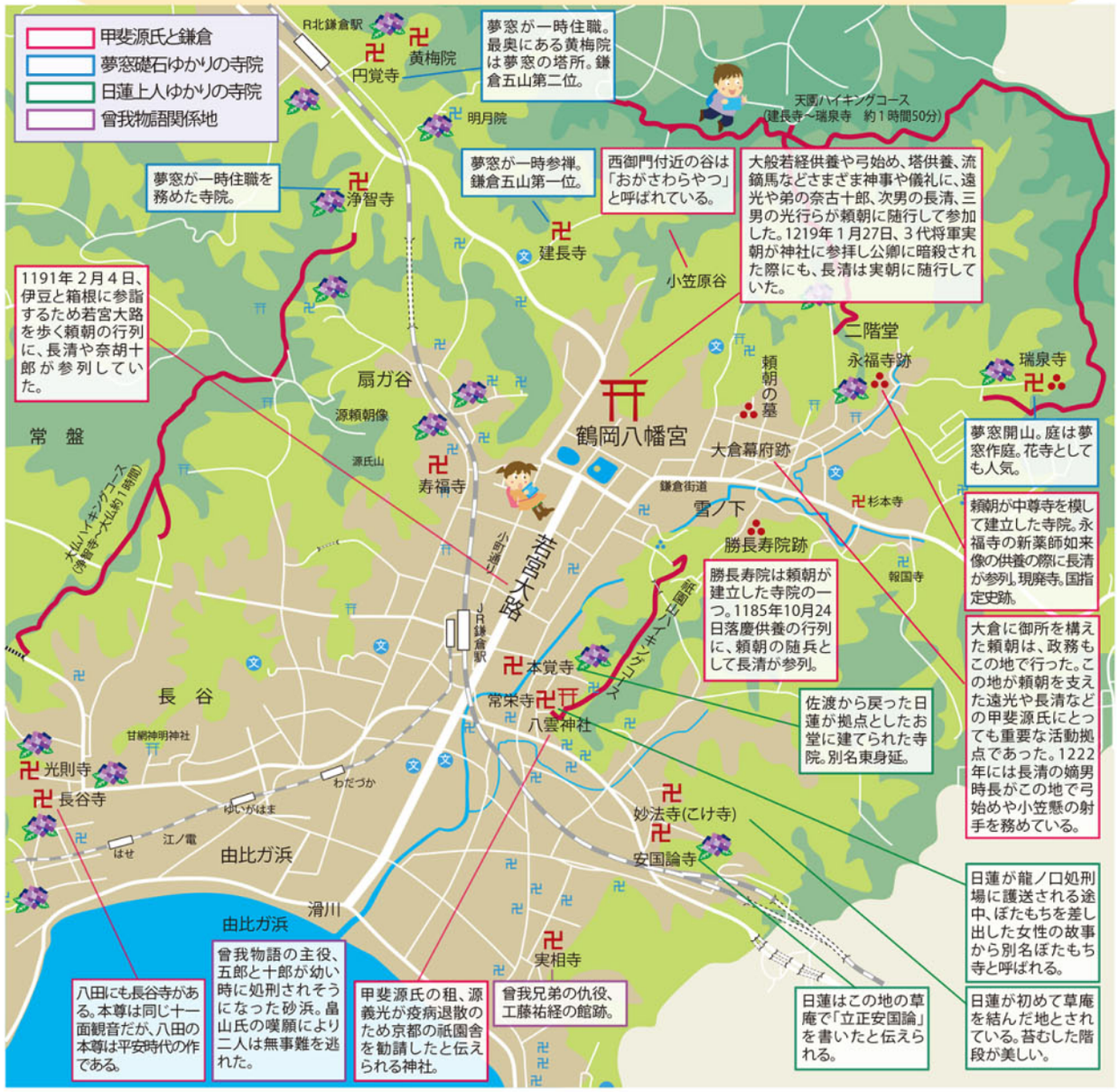
曾我物語、日蓮上人の足跡

鎌倉時代に起きた曾我兄弟の仇討ち事件。その物語の仇役工藤祐経は頼朝を支える有力な御家人でした。一方で物語のヒロイン虎御前は芦安出身と地元で伝えられています。さらに主人公の弟五郎を取り押さえたのは野牛島にお墓がある御所五郎丸。曾我物語は市と鎌倉に深いつながりがあることを示しています。その他、市内各地に見られる日蓮上人の足跡は鎌倉でもたどることができます。

※文中の年月日は鎌倉幕府が編纂した歴史書『吾妻鏡』によった。

市内の甲斐源氏をわかりやすく解説したパンフレットを教育委員会が刊行！文化財課やふるさと文化伝承館などで無料配布中です。

ふるさと文化伝承館エントランス展示
『甲斐源氏と小笠原流』
9月10日まで開催です!休館日:木曜日



甲斐源氏が支えた鎌倉

南アルプス市内に拠点を持っていた甲斐源氏、加賀美遠光とその次男小笠原長清、三男南部光行は源頼朝から篤く信頼され、鎌倉にも一時居を構えて幕府を支えていました。彼らは、鶴岡八幡宮など鎌倉各地で行われたさまざまな行事に、頼朝近くに仕える家臣として随行しています。なかでも長清は射芸に優れ、流鏑馬の評議委員を務めるなど、頼朝からとりわけ重用されました。さらに遠光の娘も頼朝の信篤く、「大弐局」の名を与えられて万寿（後の二代将軍頼家）の養育係となり、次に弟の千幡（後の三代将軍実朝）の養育係も任されたのです。

遠光（上）・長清（下）父子像
（開善寺蔵）